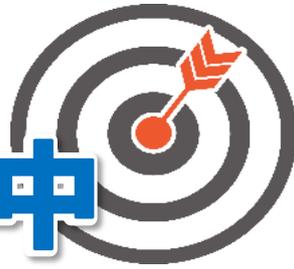


2023
ズバリ! 的中



世界史

東京大学

マムルークについての論述問題が的中
指定字数も2行(60字)以内と60字以内で的中

入試問題

前期日程

第2問 問(2)(b)

第2問

水は人類にとって不可欠の資源であり、水を大量に供給する河川は、都市や文明の発展に大きく寄与した。また河川は、交通の手段となって文化や経済の交流を促したり、境界となったりすることもあった。このことに関連する以下の3つの設問に答えよ。解答は、解答欄(口)を用い、設問ごとに行を改め、冒頭に(1)~(3)の番号を付して記せ。

⋮

問② 西アジアの一部を除いて、雨が少なく乾燥しており、大河が流れる地域がしばしば農業の中心地となった。そこには、ときに王朝の都が置かれ、政治や文化の中心地にもなった。これに関する以下の(a)・(b)・(c)の問いに、冒頭に(a)・(b)・(c)を付して答えよ。

(a) 次の資料は、ある王朝における都の建設の経緯を説明したものである。その王朝の名前と都の名前を記せ。

資料

言うには、「ここは軍営地にふさわしい場所である。このティグリス川は我々と中国との隔てをなくし、これによってインド洋からの物品すべてが我々のもとに、またジャジーラやアルメニアまたその周辺からは食糧が至る。このユーフラテス川からは、それによってシリアやラッカまたその周辺からのあらゆるものが到着する」。こうしてマンズールはこの地に降り立ち、サラート運河周辺に軍営地を設営し、都のプランを定め、区画ごとに武将を配置した。

タバーリ『預言者たちと諸王の歴史』

(歴史学研究会編『世界史史料2』より、一部表記変更)

(b) 資料中の下線部に関連して、のちの9世紀に活躍するようになったマムルークの特徴と、彼らがこの王朝で果たした役割について、2行以内で記せ。

(c) 資料に記されている都が建設されたのは、西アジアの政治的的中心地として栄えたクテシフオンの近くにおいてであった。クテシフオンを建設した国の名前に言及しつつ、その国で起こった文化的変容について、言語面を中心に、2行以内で記せ。

河合塾

高3 1期

高3東大世界史

3

③ 人類の歴史のなかで、遊牧は農耕とならぶ重要な生活様式のひとつであった。遊牧民、とりわけ軍事力や機動力にすぐれた遊牧民の集団は、広域にわたる遊牧国家の建設や周辺の農耕・定住地域への侵入、大規模な移動などによって大きな役割をはたした。

設問 9世紀ころになると、アッバース朝カリフの周辺にはトルコ人の姿が目立つようになった。彼らはアラビア語で何とよばれ、カリフは彼らをどのように用いたのか、60字以内で説明しなさい。